

Wi-Fi 7 を最大限に活用：パフォーマンスを最大化し、将来のニーズに備えるための重要な 4 つのステップ

シンプルで拡張性に優れ、安全なネットワーク
アーキテクチャへの最新化が今求められる理由



目次

01	はじめに	07	従来の課題
02	ブレークスルー	08	マイクロサービス クラウドへの移行
03	ビジネスを加速	09	AIOps の活用
04	Wi-Fi 7 の帯域幅拡大	10	セキュリティの強化
05	チャンネル容量	11	拡張性と俊敏性を 最大限向上
06	パフォーマンスと複雑さ	12	アクションガイド



Wi-Fi 7 の時代が到来 準備はできていますか？

Wi-Fi 7 導入に向け、今こそ AI ネイティブネットワーキングで ネットワークを簡素化

企業の皆様は、複雑さを効率的に管理できる方法はないか、そして急増するデバイス、新規アプリケーション、帯域幅のニーズに費用対効果に優れた形で対応する方法はないか、日々模索しておられると思います。このような状況の中、変革をもたらすターニングポイントとなるのが Wi-Fi 7 です。

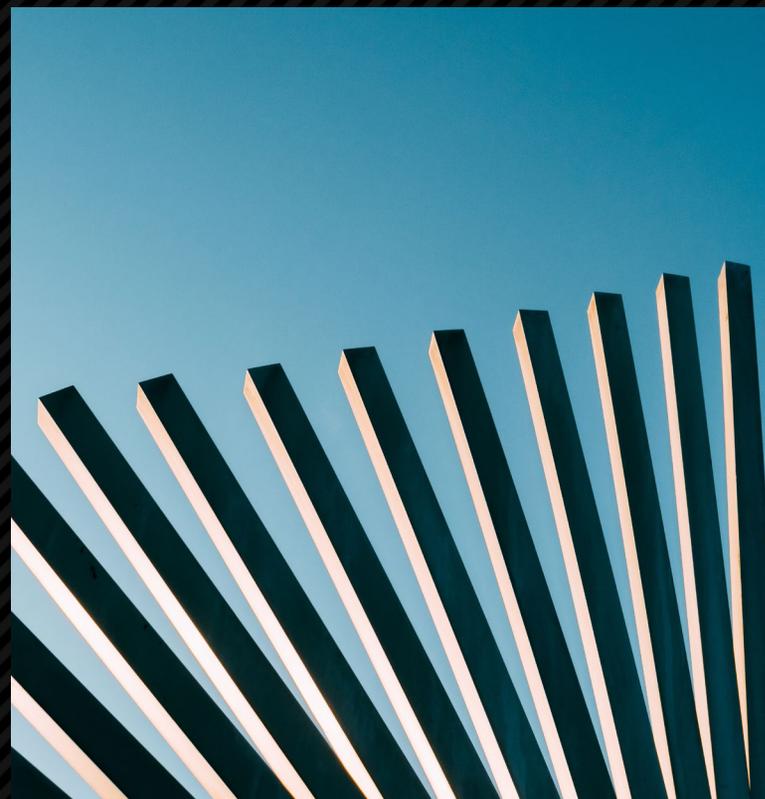
Wi-Fi 7 は、デジタル変革には欠かせない比類のない効率性、パフォーマンス、セキュリティを備えています。次世代のユーザーデバイスのサポートはもはや避けて通ることはできません。いかに早期にサポートするかが問われています。レガシーアーキテクチャを使い続けたり、適切ではないアーキテクチャを導入すると、余分な調整や管理の手間がかかり、すでに手一杯で疲弊しているチームにさらに負担をかける結果となります。

今こそ複雑さという課題を克服し、アーキテクチャの最新化の取り組みを始めるときです。新しい標準が承認されてから、導入が広く進むまで、通常 2～3 年の時間がかかります。今なら、他社に先駆けて現在のネットワークが抱える管理上の課題を克服するだけでなく、エクスペリエンスや効率性を大きく向上させることができます。

この eBook では、Wi-Fi 7 のメリットを紹介し、ネットワークの最新化が不可欠のものである理由を説明した後、OpEx を最小限に抑えつつ、優れたユーザーエクスペリエンスと IT エクスペリエンスを実現する取り組みにおいて求められる主要なステップを定義します。

ジュニパーは、急速に成長する自社の無線ネットワークを企業が適切に評価し、Wi-Fi 7 へのアップグレードを行うのをサポートいたします。

[詳細はこちら →](#)



Wi-Fi 7 の 主要な ブレイクスルー

Wi-Fi 7 は、遅延を低減し、ネットワーク容量を拡大して、効率性を向上させるさまざまな新機能を通して、かつてないパフォーマンスを備えたセキュアで耐障害性の高い無線接続を提供します。高密度環境において高速な接続と良好なユーザーエクスペリエンスの基盤となるとともに、ビデオストリーミングの品質および AR (拡張現実) や VR (仮想現実) のエクスペリエンスを向上させます。主な特長と進化したポイントは次のとおりです。

01

320 MHz の超広帯域チャンネル

6 GHz 帯域でのみ利用可能な 320 MHz チャンネルによってスループットが Wi-Fi 6 の 2 倍になり、マルチギガビットの Wi-Fi デバイススピードを実現

02

MLO (マルチリンクオペレーション)

クライアントが複数の周波数帯域で同時に送信できるため、信頼性を確保しつつスループットを向上し、効率的なリンクを実現

03

4K QAM

Wi-Fi 6 の 1024 QAM に比べて 20% 高い伝送速度を実現し、効率性が向上

03 ビジネスを加速

ビジネスを加速： 高密度環境における デバイスと トラフィックの 増加

モバイルファーストのライフスタイルへの持続的なシフト、インターネット速度の向上、そしてただちにデータやサービスにアクセスしたいというニーズの世界的な高まりにより、Wi-Fi は今や事実上ビジネスに不可欠な設備となっています。

Wi-Fi 6は、音声データを改善するOFDMA、セキュリティとゲストアクセスのプライバシーを高めるWPA3、トラフィックを削減してIoTデバイスのバッテリー寿命を延ばすターゲットウェイクタイムなど、Wi-Fi 5と比較して周波数帯域効率に大きなメリットをもたらしました。その後登場したWi-Fi 6Eでは、6 GHz 帯域への拡張により容量とパフォーマンスが強化されました。6 GHz 帯域でより多くのチャンネルが利用できるということは、干渉が減り、その結果パフォーマンスが向上することを意味します。

これらの世代を基盤とするWi-Fi 7は、ネットワークの混雑やWi-Fiの干渉を抑えつつ、IoTデバイス向けの容量を拡大することにより、高密度で困難なRF環境において優れた接続性を提供します。Wi-Fi 7のこのような進化により、モバイルデバイスとIoTデバイスがさらに増加し、ますます多くのアプリケーションが利用され、マルチギガビットの速度を必要とする新しいユースケースが生まれることでしょう。以下にその具体例を示します。

- 📺 高精細ビデオ
- 🎮 イマーシブな3Dトレーニング
- 🌐 ハイブリッドワーク
- 🏭 産業用IoT
- 🚗 自動車
- 📞 EPCS（緊急警報用通信サービス）

現状でもネットワーク環境の管理は困難ですが、このようにユースケースが広がり、使い方に変化が生じると、さらに複雑さが増し、Wi-Fi 7の導入に先駆けて、または導入と同時にアーキテクチャを最新化することが不可欠となります。しかし、現代の環境において高まり続けるアーキテクチャの重要性に踏み込む前に、まずはWi-Fi 7の主な詳細をご紹介します。



73%

過去2年間に自社のネットワーク環境の複雑さが増したと回答した企業の割合¹

Enterprise Strategy Group

04 Wi-Fi 7 の帯域幅拡大

さらに帯域幅が拡大し スピードが向上した Wi-Fi 7

Wi-Fi 7 には、RF（ラジオ周波数）効率の向上、データレート的高速化、密度の向上、スループットの改善、スケジューリングの効率化、パフォーマンスの向上といったメリットがあります。スケールアップは顕著です。

Wi-Fi 5 から Wi-Fi 7 への周波数帯とプロトコルの進歩により、利用可能な帯域幅が拡大するとともに、スピードも向上しました。

- Wi-Fi 5：2.4 GHz および 5 GHz（802.11ac）
- Wi-Fi 6：2.4 GHz および 5 GHz、さらに 802.11ax の機能（OFDMA、WPA3、ターゲットウェイクタイム）
- Wi-Fi 6E：Wi-Fi 6 のすべての機能に対応し、さらに 6 GHz 帯域での動作をサポート
- Wi-Fi 7：Wi-Fi 6E のすべての機能に加えて、320 MHz チャンネル、4K QAM、および MLO のサポートを通じたスループット向上と遅延の低減により、高密度環境でも高品質なストリーミングおよびビデオを容易に実現し、IoT デバイス向けの容量を拡大

Wi-Fi 7 機能の[詳細](#)

Wi-Fi 6 機能の[詳細](#)

Wi-Fi 5	Wi-Fi 6E	Wi-Fi 7	Wi-Fi 7 のメリット
5 GHz	2.4、5、6 GHz	2.4、5、6 GHz	容量増加による次世代のユースケースのサポート
160 MHz 80 MHz 40 MHz 20 MHz	160 MHz 80 MHz 40 MHz 20 MHz	320 MHz 160 MHz 80 MHz 40 MHz 20 MHz	Wi-Fi 6 で最も広いチャンネルサイズの 2 倍をサポートし、高速なユースケースでは 160 MHz の利用が必須に
3.5 Gbps	9.6 Gbps	36 Gbps (3 リンクの MLO) 23 Gbps (単一リンク)	Wi-Fi 6 よりも 3 倍以上高いスループット
	1K-QAM	4K-QAM	スペクトル効率の改善、狭いエリアに密集するデバイスのスピード向上とサポート強化



05 チャネル容量

チャネル容量の増加でより多くのユーザー、デバイス、アプリをサポート

Wi-Fi 7により、デバイス密度の急増にも対応できる、より高速で信頼性の高いネットワークを構築できるため、拡張性が高まります。

チャネル容量の増加による Wi-Fi 7 のメリットは、具体的には従来と比べて数倍のデバイス、ユーザー、アプリケーションをサポートできることを意味します (図 1)。ビデオのストリーミング、ビデオ会議への参加、音声通話のホストをシームレスに行えるようになり、高帯域幅アプリケーションの実現に向けた重要な第一歩となります。

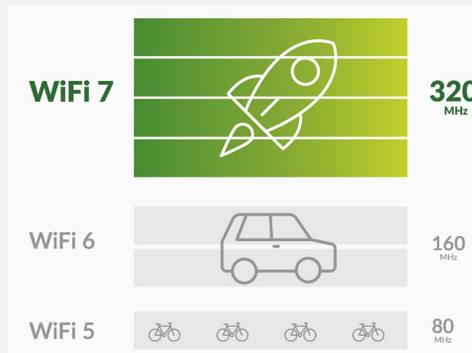


図 1

320 MHz チャネル：2 倍のスループット

Wi-Fi 7 は、超広帯域の 320 MHz チャネルを導入することで (6 GHz 帯域でのみ利用可能)、以前の Wi-Fi 標準と比較してスループットを実質的に倍増させ、ネットワーク速度も大幅に向上します

ただし、この追加周波数帯のすべてが世界中で利用できるわけではありません。たとえば、EU では現在、図 2 に示すように、低い周波数の UNII 5 帯域で、かつ低出力 (屋内) または超低出力 (屋内または屋外) の使用のみが許可されています。



Wi-Fi 7 帯域割り当て

Wi-Fi 7 では、6 GHz 帯域でチャネル割り当てを拡張し、最大 320 MHz の帯域幅をサポートします。これにより、速度を向上させるとともに、遅延を低減できます。6 GHz 帯域には複数の広帯域チャネル (20、40、80、160、および 320 MHz) が含まれており、高密度環境に最適で、次世代無線ネットワークで求められるスループットの向上を実現します。

[詳細はこちら](#)：Wi-Fi 7 とは

06 パフォーマンスと複雑さ

パフォーマンスの向上 と複雑さの増加

Wi-Fi 7 AP (アクセスポイント) の高いスループットとパフォーマンスは重要ですが、大きな視点でとらえるとこれらも Wi-Fi 7 がもたらすメリットの一部にすぎません。

今日の有線ネットワークおよび無線ネットワークは、ビジネスや組織のほとんどあらゆる業務運営における神経系としての役割を果たしています。従業員の生産性やカスタマーエクスペリエンス、全体としての業務効率に至るまで、あらゆるものにとって、これらのネットワークのシームレスで効率的なパフォーマンスが不可欠です。ビジネス要件、そしてリソースや予算の制約を考慮した場合、従来のアーキテクチャと事後対応型の管理アプローチではもはや通用しません。



有線ネットワークおよび無線ネットワークは、かつてないほどビジネスに不可欠となっている一方、膨大な数のモバイルデバイスと IoT リソース、そしてもちろん、使用中のさまざまなハードウェア、オペレーティングシステム、アプリケーションなどを考慮すると、これまで以上に運用が難しくなっています。

従来のアーキテクチャは、非常に手作業が多く、ネットワークを中心にしたアーキテクチャであり、今日のユーザーと管理を担当する IT 部門をサポートするために必要となる拡張性、柔軟性、エンドツーエンドの可視化に欠けています。さらに、Wi-Fi 7 は 320 MHz チャンネル、MLO、4K QAM でパフォーマンスを向上させますが、さらなる微調整や管理も必要となり、課題も増えます。

そこで新たに生じる、あるいはすでに生じている管理上の課題を克服するカギとなるのが、AIOps (IT 運用のための人工知能) です。たとえば、自動化によって Wi-Fi 設定 (チャンネルや出力など) を最適化し、干渉を最小限に抑えることができます。機械学習を使用すれば、リアルタイムデータと過去のデータを分析して問題の根本的原因を突き止め、事前対応型のトラブルシューティングを容易に行うことができるため、運用を大幅に効率化できます。

そのため、すでに大きな負担を強いられている IT チームの運用を簡素化し効率を高めるために、Wi-Fi 7 への移行前、または移行中に行うべき最も重要なことは次の項目になります。

- 01 レガシーネットワークをアップデートする
- 02 適切なクラウドに移行する
- 03 AIOps 機能を活用する
- 04 ユーザーとデバイスを保護する

取り組みの各ステップに沿って、主要な考慮事項を簡単に確認してみましょう。

「AIOps プラットフォームは、エンタープライズネットワークの課題を克服するための強力なツールになり得ます。AI ネイティブおよびクラウドネイティブであること、無線と有線全体をカバーするプラットフォームベースのアプローチを備えていること、そしてセキュリティがネイティブに組み込まれていること、これらが基本的な機能として重要となります。昨今、ジュニパーが強化している AI ネイティブネットワークングプラットフォームは、エンタープライズネットワーク管理に必要な AIOps 機能に重要な進化をもたらし続けます」

ブランドン・バトラー氏、リサーチマネージャー、エンタープライズネットワーク、IDC

07 従来の課題

レガシーネットワークをアップデートする

デジタル変革には、拡張性に優れ、信頼性が高く、俊敏な最新のネットワークアーキテクチャが必要です。ますます複雑化するネットワークインフラストラクチャに対応するために、非常に優れたモバイルエクスペリエンスと高い運用効率を提供するものでなければなりません。

従来、無線コントローラーアーキテクチャは、AP の導入管理における大きな進歩とみなされていました。クライアントデバイスの数が限られていて、接続できれば便利という感覚だったときはこのアーキテクチャで十分な効果を上げることができました。

しかし、コントローラーアーキテクチャは、現代のモビリティ要件に対応する機能を備えていません。今日の環境には、ほとんどあらゆる場所から安全でシームレスに接続できることが求められます。従来型のコントローラー、コロケーションデータセンター、サイロ化されたテクノロジスタックは、ネットワークの複雑さにつながります。管理が困難で、ユーザーエクスペリエンスの可視性も損なわれます。

結局のところ、多くの手作業が必要になる従来型のネットワーク中心アーキテクチャは、最新の運用形態に必要な拡張性と柔軟性を欠くだけでなく、ネットワークを効果的に最適化して保護するために必要なエンドツーエンドの可視性にも欠けているのです。

以下に、最新化のための主要な考慮事項を示します。

- 01 拡張性と柔軟性:** 今後何世代にもわたり Wi-Fi および無線がアップグレードされても、それらによりもたらされる成長や変化に対応できるプラットフォーム
- 02 エンドツーエンドの可視性:** 包括的な可視性を備え、リアルタイムの監視およびトラブルシューティングが可能な統合管理プラットフォーム
- 03 クラウド統合:** 展開および更新において最大限の俊敏性を備え、オーバーヘッドが低く、他のサービスともシームレスに統合されているソリューション([13 ページ参照](#))
- 04 自動化と AI:** 人間の手による介入を減らし、運用を効率化して、継続的にパフォーマンスを最適化するための、AI を活用した自動化機能 ([14 ページ参照](#))
- 05 堅牢なアクセス制御:** ゼロトラストポリシーを信頼性のある形で適用できる、ID ベースのネットワークアクセス制御
- 06 高パフォーマンスのスイッチ:** 電力を多く消費するデバイスをサポートする PoE (パワーオーバーイーサネット) を備え、将来のネットワークへのニーズにも対応した最適な接続性、拡張性、効率性を提供する高度なスイッチへの投資

08 マイクロサービスクラウドへの移行

適切なクラウドに移行する

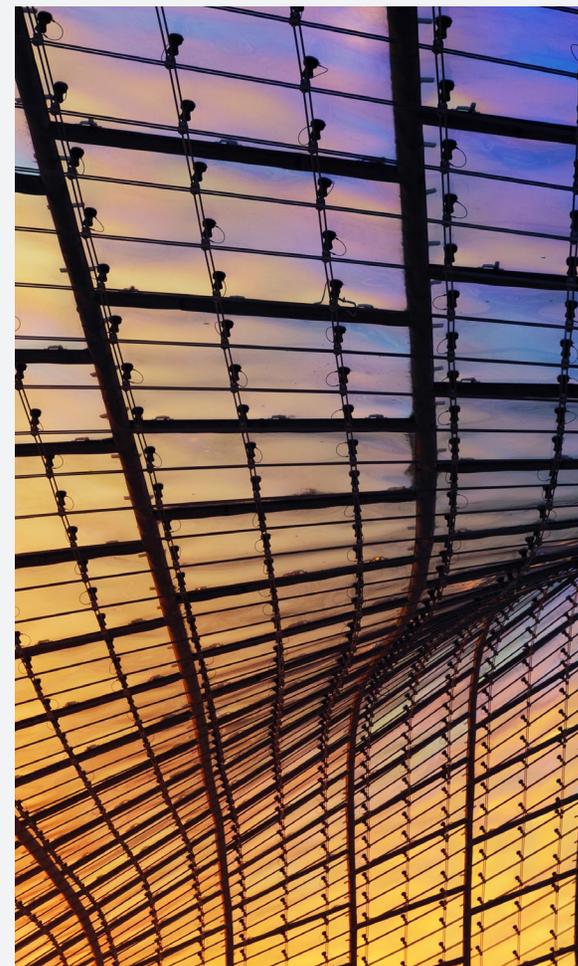
パフォーマンスを最大化し、拡張性と柔軟性を高め、コスト効率を最適化するためには、最新のさまざまなネットワーキングクラウドソリューションの違いを理解することが重要です。

多くのネットワークプロバイダは、オンプレミスのソリューションに大きく依存し、ハイブリッドクラウドの要素を含む、従来型の IT アーキテクチャを今でも利用しています。このようなアーキテクチャは、真のクラウドネイティブなソリューションと比べて、拡張性と柔軟性の点で劣ります。

最新のマイクロサービスクラウドアーキテクチャでは、アプリケーションをより小さな独立したサービスへと分割します。それらの各サービスは、それぞれ API を介して通信します。このような設計により、個別のサービスをニーズに応じて独立して拡張することができるので、リソースの最適な利用や、コスト削減につながります。また、障害の分離も促進されるので、あるサービスで問題が発生しても、アプリケーション全体には影響せず、信頼性が向上します。さらに、このアーキテクチャは新しいテクノロジーやクラウドネイティブツールとのシームレスな統合をサポートしているので、迅速にイノベーションを推進し、市場投入までの時間を短縮できます。

最新のネットワーキングクラウドにおける主な考慮事項を以下に示します。

- マイクロサービスアーキテクチャ
- 高度な障害の分離
- DevOps と CI/CD の統合



09 AIOps の活用

AIOps 機能を活用する

IT インフラストラクチャは複雑さを増し続けており、AI を活用していない最高のツールを活用しても、人の手には負えないレベルとなっています。AIOps を活用することにより、現在の運用を強化するだけでなく、このように IT インフラストラクチャの複雑さが増す中でも適切な管理を続けることができます。この点こそが AIOps の真の価値といえます。

AIOps は、急速な進化を遂げる IT ネットワークの複雑さをうまく管理するために欠かせないテクノロジーです。AIOps は、自動化と AI を利用して、オンボーディング、導入、トラブルシューティングなど、Day 0 から Day 2 以降におよぶネットワークの運用を簡略化できます。

今日業界をリードする AIOps プラットフォームは、長年にわたる強化学習を通して、エンドツーエンドのサービスアシュアランスのための AI によるインサイトと自動化されたアクションを提供することにより、信頼性があり、数値化

され、安全なネットワーク接続を実現します。また、有線、無線、SD-WAN、WAN エッジ、データセンター、セキュリティドメイン全体にわたる問題の迅速な検出、隔離、解決を可能にすることで、ネットワーク運用の効率性と生産性を高めます。

ベンダーの AIOps 機能の可能性を理解し把握する際に、尋ねるべき主な質問を以下に示します。

- ネットワークスタック全体のあらゆる場所であらゆるユーザーが一貫性のある優れたエクスペリエンスを得ることができるよう、ベンダーはどのような仕組みを用意しているか。
- ユーザーが気づく前にネットワークが適応的に問題を修復できるか。
- サービスを迅速かつ問題なく稼働させるために、ベンダーはどのような仕組みを用意しているか。
- Day 2 運用を最適化して緊急に必要となる対応作業を減らし、チームが戦略的に重要なビジネス上の問題に注力できるよう、ベンダーはどのような仕組みを用意しているか。
- ベンダーは、迅速に脅威を検出して無効化し、ビジネスへの影響を最小限に抑えることができるか。

詳細はこちら：[エンタープライズネットワークにおける AI の誇大広告と AI ネイティブの現実 \(英語\)](#)



自動検知

最大 **90%**

障害対応チケット数が減少

自動修復

最大 **80%**

出張サービスが減少

自動設定

最大 **9 倍**

導入にかかる時間を短縮

10 セキュリティの強化

Access Assurance により Wi-Fi 7 を保護する

Wi-Fi 7 には、数多くの進化した機能やパフォーマンス強化が盛り込まれていますが、企業の攻撃対象領域も大きく広がることとなります。巧妙さを増す脅威に対抗するためには、セキュリティ体制を改めて見直し、それらの脅威に備えることが重要です。

複雑な構成要件、DoS 攻撃を受ける可能性、そしてネットワークに接続されるデバイス数の増加によるデバイスの脆弱性の高まりなど、Wi-Fi 7 により数々のセキュリティ上の課題が生じます。

今後、セキュリティ体制のギャップを埋めるためには、堅牢な NAC（ネットワークアクセス制御）が不可欠となります。NAC ソリューションは、ネットワークへのアクセスを許可する前にチェックや検証を実行することでゼロトラストのセキュリティポリシーを適用し、広範にわたるゼロトラストアプローチをさらに強化します。現代のネットワークの複雑さを考慮した場合、IT とユーザーの両方のセキュリティを簡略化および強化する最新のアプローチを備えた NAC の導入が重要となります。

信頼性のあるアクセス制御のための主な考慮事項を以下に示します。

- クラウドベースで、かつ弾力性のある拡張を実現する機械学習および自動化機能を搭載
- エンドユーザーエクスペリエンスを継続的に検証および保護するためのネットワーク接続の可視性を備えた NAC 統合
- ネットワークのあらゆる部分に対するエンドツーエンドの可視化とポリシー適用が可能な、一元的な管理機能

[詳細はこちら](#)：ゼロトラストネットワークとセキュリティコンバージェンスの加速（英語）



11 拡張性と俊敏性を最大限向上

Wi-Fi 7 と Mist AI の 統合による拡張性と 俊敏性の最大化

適切な方法で Wi-Fi 7 の導入を進めましょう。業界唯一のクラウドネイティブな AI ネイティブネットワーキングプラットフォームにより、Wi-Fi 7 の能力と拡張性を活かし、運用を効率化しましょう。

ジュニパーは、Mist AI、および初の AI ネイティブ WLAN（無線 LAN）の導入により、無線の分野に革命をもたらしました。ユーザーエクスペリエンスのリアルタイムの可視性および独自の SLE（サービスレベル期待値）メトリックにより、Wi-Fi の運用状況が数値化され、予測可能性、信頼性、安全性が高まります。

事前対応型の AI ネイティブな自動化、および自己修復型のネットワークにより、優れたユーザーエクスペリエンスと IT エクスペリエンスを提供しながら、時間のかかる手作業をなくし、Wi-Fi の運用コストを大幅に低減できます。ジュニパーの主力製品である Juniper® AP47、[Mist AI とクラウド](#)により、導入から継続的な運用までさまざまなメリットがもたらされます。

- ネットワークに比類のないレベルの俊敏性、拡張性、耐障害性を提供するジュニパーのクラウドネイティブの AI ネイティブマイクロサービス
- ジュニパーの AP が収集した大量のリッチメタデータを活用し、OpEx を削減しつつ、ネットワークのパフォーマンス、動作、トラフィックパターン、潜在的なトラブルスポットに対する大幅に強化されたインサイトを提供するデータサイエンスインサイト
- 運用担当者とユーザーのエクスペリエンスを最適化し、コンプライアンスを推進して、全体としてのセキュリティ体制を強化する、クライアントからクラウドにわたるセキュアな自動化、インサイト、AI ネイティブアクション

AI Ops の活用を目的として構築されたジュニパーの AI ネイティブネットワーキングプラットフォームにより、Wi-Fi 7 の高速なスピード、パワー、パフォーマンスを利用し、あらゆるユーザーおよびデバイスに優れたエクスペリエンスを確保して、エンドツーエンドで最適な運用担当者のエクスペリエンスを実現することができます。

何より、AI ネイティブネットワークを通じた最新化の取り組みは、旧世代の Wi-Fi を利用している場合でも、今後登場する世代の進化した機能を利用する場合でも、あらゆる世代の Wi-Fi にメリットをもたらします。

Wi-Fi 最新化のためのアクションガイド

Wi-Fi 7 への移行前または移行中に、運用を簡素化し、IT チームの効率を高めるための 4 つの重要なステップに沿って進むことが重要です。これにより、ネットワークの潜在能力を最大限に引き出し、最低限の OpEx で優れたユーザーエクスペリエンスを提供する準備が整います。

01

レガシーネットワークから脱却する

コントローラーアーキテクチャから、AI ネイティブ ネットワーキングプラットフォームに移行します。

02

マイクロサービスクラウドに移行する

ネットワーキングの運用を、最も柔軟性と拡張性に優れたクラウド環境に移行します。

03

AI ネイティブ AIOps を活用する

有線、無線、SD-WAN、WAN エッジ、データセンター、セキュリティドメイン全体に適用可能な、実績ある AI および自動化機能を導入します。

04

攻撃対象領域を狭めてセキュリティ体制を強化する

AI と機械学習を活用した NAC を使用し、ユーザーの行動とネットワークトラフィックを継続的に監視および分析することで、ネットワークセキュリティを強化します。

次のステップ

Wi-Fi 7 の導入または継続利用に関する詳細およびサポートについては、ジュニパーのアカウント担当者にお問い合わせください。また、信頼できるプロバイダを通じて、各種マネージドサービスについてお問い合わせください。



エキスパートにお問い合わせる

Wi-Fi 7 導入の取り組みに関してジュニパーネットワークスはガイダンスを提供しています。詳細については、ジュニパーのエキスパートとのコンサルティングをご予約ください。

[お問い合わせ →](#)



AI ネイティブの実例を参照する

ジュニパーが毎週開催している Mist AI のデモで、AI ネイティブネットワーキングプラットフォームの実例をご覧ください。

[今すぐ登録 \(英語\) →](#)



機能について詳しく知る

Mist AI ダッシュボードのセルフガイドツアーで、Mist により運用をどのように効率化できるかについてぜひご確認ください。

[Mist AI の無料トライアルを開始 \(英語\) →](#)



Wi-Fi を進化させる

Wi-Fi 7 の潜在能力を最大限に活用できるジュニパーの高パフォーマンス Wi-Fi 7 ソリューションを紹介しています。

[詳細はこちら →](#)

ジュニパーを選ぶ理由

ジュニパーネットワークスは、単なる接続性は優れた接続エクスペリエンスと同じではないと考えています。ジュニパーの AI ネイティブネットワーキングプラットフォームは、AI を活用し、エッジからデータセンター、クラウドにいたるまで、最高かつ安全なユーザーエクスペリエンスを実現することを目的に、ゼロから構築されています。詳細については、www.juniper.net/jp/ja をご覧ください。また、X (旧 Twitter)、[LinkedIn](#)、[Facebook](#) でもジュニパーのフォローをお願いいたします。

ジュニパーの AI ネイティブアクセラレーションのための設計図の詳細については、ジュニパーの担当者またはパートナーにお問い合わせいただくか、www.juniper.net/jp/ja をご覧ください。

注記と参照先

- 01 『AI-Native Requirements for Modern Networks』、Enterprise Strategy Group、2024 年 1 月。

JUNIPER
NETWORKS

Juniper.net

© Copyright Juniper Networks Inc. 2024.
All rights reserved.

Juniper Networks Inc.
1133 Innovation Way
Sunnyvale, CA 94089

7400195-001 JA 2024 年 9 月

Juniper Networks Inc.、ジュニパーネットワークスのロゴ、juniper.net、および製品は、Juniper Networks Incorporated の登録商標であり、アメリカ合衆国および世界中の多くの地域で登録されています。その他の製品名やサービス名は、ジュニパーネットワークスまたは他の企業の商標である場合があります。本文書は初版発行時点での情報であり、ジュニパーネットワークスによって随時変更される可能性があります。ジュニパーネットワークスが営業している地域であっても、国によってはご利用になれない製品 / サービスがある場合があります。